



Monthly Guide

2021年
2月号

りそなグループの
YouTubeで、
最新のマーケット情報を
配信しております！



主要マーケットの動き

■1月の世界株式は上昇一服となりました。月央までは緩和的な金融環境と世界景気の回復期待からNYダウは最高値更新、日経平均株価は30年ぶりの高値水準となりましたが、月末にかけ伸び悩みました。

■債券市場では、バイデン新政権下で拡張的な財政政策がとられるとの観測から米10年債利回りは昨年3月以来の1%越えとなりました。米金利上昇を受け、為替市場ではドル安進行が一服しました。

● 今月の金融環境



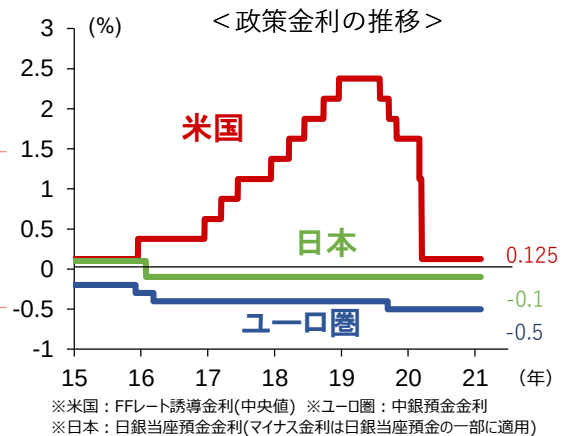
1月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で、月1200億ドル規模の資産買い入れを含む現行の緩和策の据え置きを決定しました。パウエル議長は「緩和縮小の議論は時期尚早」とし、早期正常化観測の高まりを牽制しました。



ECB(欧州中央銀行)は1月の理事会で現行の緩和策を据え置きました。1.85兆ユーロ規模の緊急資産買い入れプログラムに関し、金融市場の動向次第で規模の縮小も拡大もあり得るとする政策指針を声明文に加えました。



日銀は次回3月の会合までに、金融政策の点検を行うとしています。ETFの買い入れ額や長短金利操作(YCC)の変動許容幅などが点検の対象になると見られます。



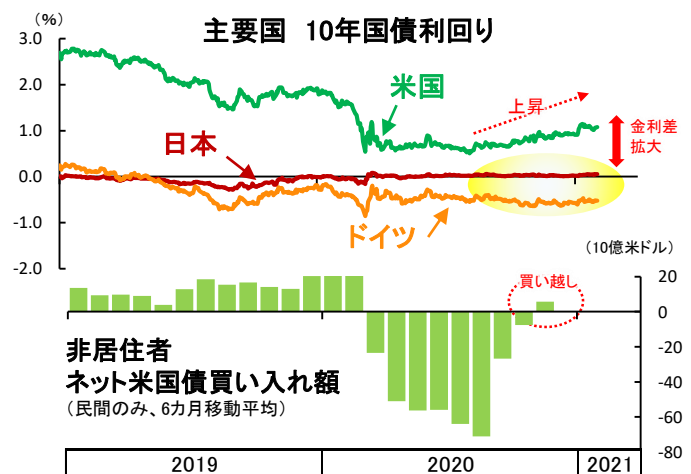
● 今月の注目指標 米国金利の上昇と海外投資家の米国債投資

米10年国債利回りが一時、昨年3月以来の1.18%まで上昇する等、米長期金利が上昇傾向にあります。米大統領府・上下院を民主党が制したことで、拡張的な財政政策の実現性が高まったことが背景とみられます。

一方、米金利上昇を抑える要因としては、FRBの強力な金融緩和策の継続と、内外金利差拡大による海外からの米国債投資の活発化が挙げられます。

米国短期金利の低下により、為替ヘッジコストが低下していることも海外からの米国債買い入れを後押しすると見られます。この先、米長期金利が上昇する場面では、米国債の魅力の高まりから、海外からの旺盛な投資需要が見込まれます。

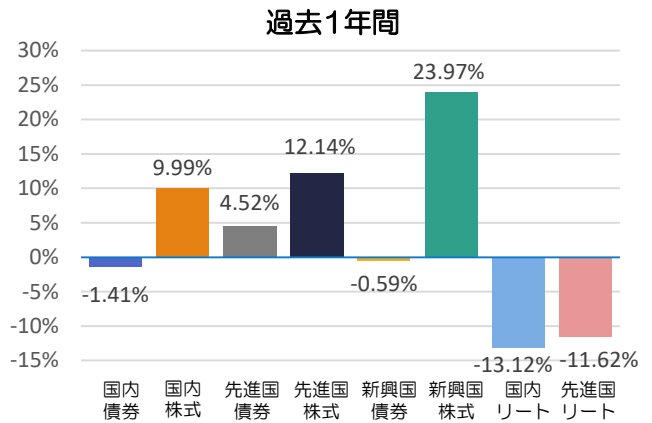
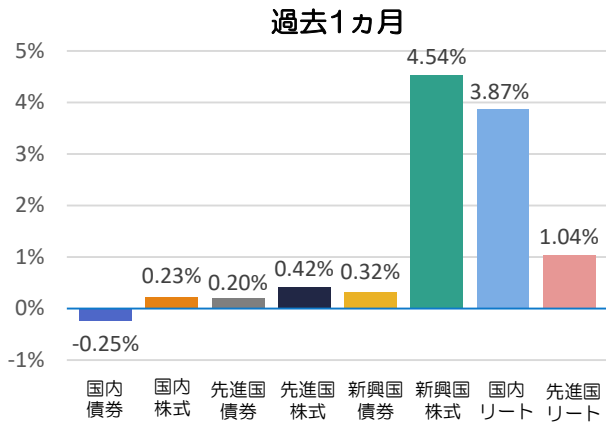
世界景気の回復が緩やかにとどまり、主要国の金融緩和政策が続く中、米金利が一方的に上昇する余地は限られると考えられます。



【出所】Haver analytics、ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成。

※本資料の使用に際し、最終ページの<本資料に関するご注意事項>をご覧ください。

1月末基準 各資産別 月間騰落率と振り返り (円換算ベース)



※ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券：NOMURA-BPI総合、国内株式：東証株価指数（TOPIX、配当込み）、先進国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）、先進国株式：MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）、新興国債券：JPモルガンGBI-EMグローバルダイバーシファイド（円換算ベース）、新興国株式：MSCI Emerging Markets Index（配当込み、円換算ベース）、国内リート：東証REIT指数（配当込み）、先進国リート：S&P先進国REIT指数（除く日本、配当込み、円ベース）

国内債券

10年国債利回りは0.05%台まで上昇しました。日銀が3月に予定する各種施策の点検に向けて、長短金利操作（YCC）の変動許容幅を拡大するとの観測から、金利は強含みで推移しました。20年国債利回りは2年ぶりに0.4%台半ばまで上昇しました。1月の日銀展望レポートで消費者物価上昇率見通し（中央値）は21年度0.5%、22年度0.7%と示されました。

国内株式

日経平均株価は30年ぶりの高値水準となる2万8000円台後半まで上昇しました。TOPIXは1800ポイント台後半まで上昇し、約2年ぶりの水準を回復しました。TOPIX-17（セクター別・17業種区分）では、昨年1年間の上昇率トップの電機・精密が続伸する一方、資源エネルギー、銀行などパフォーマンス下位セクターの上昇が目立ちました。

先進国債券

米10年国債利回りは、1.1%台後半まで上昇しました。月初に行われた米上院決選投票を受け、米財政拡大期待が高まり、長期金利は強含みで推移しました。FRB（米連邦準備制度理事会）の量的緩和策の段階的縮小（テーパリング）が早期に検討されるとの観測も金利上昇圧力となりました。欧州では、感染拡大による景気見通しの悪化から米国に比べ金利上昇は限定的で、米・独金利差が拡大しました。

先進国株式

米国では、NYダウなど主要3指数が最高値を更新しました。昨年までの大型成長株主導の展開から、中小型株や割安株にも物色が広がりました。月末にかけては、SNS（交流サイト）等でつながった小口投資家の連携買いで特定銘柄が乱高下したことが警戒モードにつながり、上昇一服となりました。欧州では、新型コロナ感染拡大が懸念され、英・独・仏の主要株価はマイナスで終わりました。

新興国債券

新興国債券（円建て）は、3ヵ月連続でプラス・パフォーマンスとなりました。国別では、人民元高基調の続く中国がプラス寄与となる一方、ブラジル、南アフリカ、ロシアなど資源国市場のマイナス寄与が目立ちました。

新興国株式

新興国株式（円建て）は、4ヵ月連続で上昇しました。国別ではブラジルがマイナス寄与となる一方、2020年10-12月期のGDP成長率が前年比+6.5%とコロナ禍前の成長ペースに回復した中国や、世界的に旺盛な半導体需要を受け、テクノロジーセクターの比率の高い台湾・韓国の上昇が目立ちました。

国内リート

東証リート指数は、約10ヵ月ぶりに1800ポイント台を回復し、3ヵ月連続で上昇しました。12月の部門別売買動向では、投資信託と海外投資家が2ヵ月連続で買い越しとなり、個人資金等の流入増がうかがえます。用途別指数では、商業・物流指数の上昇が目立ちました。

先進国リート

先進国リート指数は、3ヵ月連続で上昇しました。国別では、独・豪の下落が目立つ一方、シンガポールやベルギーが上昇しました。セクター別では、新型コロナ感染再拡大からホテルセクターの下落が目立つ一方、リテールセクターの上昇が目立ちました。

<本資料に関するご注意事項>

○本資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。○本資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に示されている当社の見通し、予測、予想、意見等（以下、見通し等）は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見通し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保障するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。○本資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。

＜ファンドの設定・運用＞ ■りそなアセットマネジメント 商号等/りそなアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2858号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会